



News Letter

2026年

3月

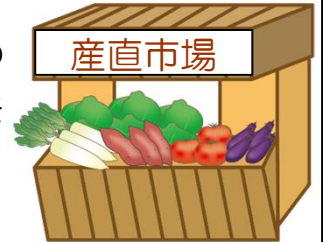
中国四国農政局
徳島県拠点

徳島県の産直市場の未来像!!

～中山間地域における産直市場の課題と対応について アンケート調査結果を分析～

徳島県の農村地域は中山間地域に属し、人口減少や高齢化が急速に進行しており、地域コミュニティの維持や地域振興・活性化が課題となっています。中国四国農政局徳島県拠点は、この課題に対し、産直市場の活性化を通じて、中山間地域の地域振興を図ることを目的に、徳島県内の産直市場の消費者ニーズや販売動向について調査を実施しました。

そこで見てきたのは、地域課題を解決するために産直市場に新たに求められる四つの機能強化（①宅配や送迎などの買い物支援、②非常電源などを備える防災拠点、③生産者を育成するための情報提供や交流、④キッズスペースやイベントを開催する子育て交流の場）の重要性でした。



【産直市場の目的】

- ・生産者の所得向上
- ・地域農業の振興
- ・地域活性化の拠点

<生産者>

- ・自ら決める価格
- ・無駄なき直売
- ・やりがいの場

<消費者>

- ・新鮮で安心
- ・地域とつながる
- ・食卓に届く旬

【今回の分析で見えた新たな機能】

- ① 買い物支援
(宅配・送迎)
- ② 防災拠点
(非常電源・備蓄)
- ③ 生産者育成
(情報提供・交流)
- ④ 子育て交流
(キッズスペース・イベント)



提言

新多機能型拠点 「売る」から「支える」へ

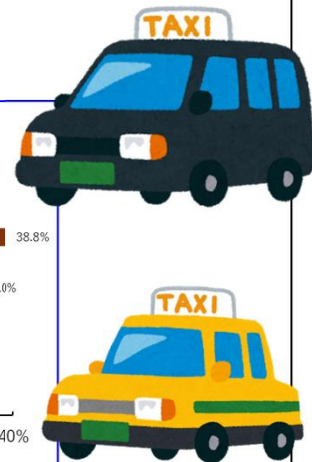
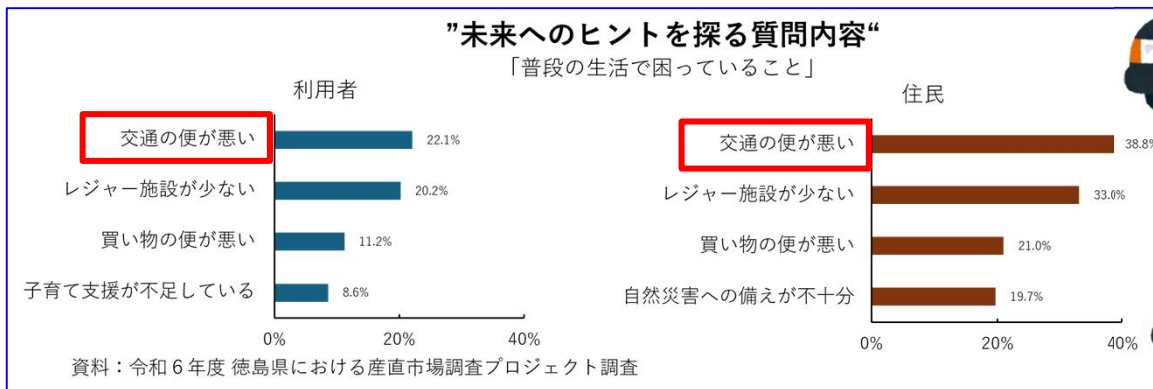
生活支援型産直市場として地域とともに進化する

【調査結果】

新たな機能①

買い物支援 ～買物困難者を救う地域の砦～

- 徳島県中山間地域では人口減少・高齢化に伴い「交通・買い物の不便さ」が深刻化、特に免許返納後の高齢者にとって日常の買い物は困難
- 産直市場は「地場農産物販売促進」だけでなく「買物困難者支援」機能が期待され、地域のライフラインとして認識
- 生活支援機能を備えた産直市場への進化が必要



新たな機能②

防災拠点 ～南海トラフ地震への備え～

- 住民調査では約2割が「災害備え不十分」と回答、中山間地域では孤立・物資不足の懸念
- 産直市場は「地域密着」「食料供給」「広い駐車場」など防災拠点に適した条件
- 「平時の市場」から「災害時の砦」へ進化し、行政連携で防災機能強化が必要

南海トラフ地震
発生確率

60～90%

政府の地震調査委員会

資料：文部科学省 地震調査研究推進本部事務局

新たな機能③

生産者育成 ～生産者の高齢化による供給危機～

- 「販売目的で育てた」野菜・果樹の経営体数が10年で約4割減り、出荷者減が懸念
- 出荷者の高齢化で出荷量・頻度・会員数減少、産直市場の価値（新鮮さ・安心感）への脅威
- 生産者育成と人のつながりを強化し、産直市場を「待つ場」から「育てる場」へ転換する必要

新たな機能④

子育て交流 ～子育て交流のハブ産直市場～

- 30代子育て世代の約2割が「子育て支援不足」を懸念
- 中山間地域では子育て世代の孤立や高齢者の交流不足が課題
- 屋内型キッズスペース、親子イベント、授乳室完備、食堂で世代間交流。産直市場が子育て支援・地域交流の場として機能し、地域コミュニティ再構築に寄与
- 県内他の中山間地域でも、同様の取組が広がることが必要

詳しいデータは、次のリンクをご覧ください。

・徳島県における産直市場調査プロジェクト

<https://www.maff.go.jp/chushi/nousei/tokushima/santyoku.html>

編集：中国四国農政局 徳島県拠点

〒770-0943徳島県徳島市中昭和町2丁目32番地

TEL (088)622-6133(内線403) <農政局HP> <https://www.maff.go.jp/chushi/>

◆ニュースレターに関するアンケートにご協力ください。 <https://www.contactus.maff.go.jp/j/chushi/form/nl180401.html>